

## 平成 26 年度国立大学図書館協会海外派遣事業参加報告書

一橋大学学術・図書部学術情報課

柴田 育子

このたび、平成 26 年度国立大学図書館協会海外派遣事業により、フランス国内のコンソーシアム等を訪問し調査研究を行ったので、以下のとおり報告する。

### 1. 訪問期間

平成 26 年 10 月 5 日（日）～10 月 12 日（日）

### 2. 訪問先 / 担当者

- (1) Bibliothèque National de France / Mr. Franck Bardon, Mr. Régis F. Stauder, Ms. Véronique Béranger, Ms. Mireille Ballit
- (2) Couperin (Consortium Unviersitative des Publications Numeriques) / Mr. André Dazy, Ms. Martine Coppet, Mr. Thomas Porquet
- (3) Bibliothèque Sainte Genevieve
- (4) Bibliothèque Cujas / Ms. Sylvie Chevillotte
- (5) La bibliothèque universitaire de l'Université Montpellier 2
- (6) ABES (Agence Bibliographique de l'Enseignement Superieur) / Ms. Carole Melzac, Mr. Benjamin Bober
- (7) Bibliothèque universitaire Droit Economie Gestion de Montpellier BU Richter / Ms. Marie Nikichine

\* (1) (3) (4) は Mr. André Dazy のご厚意、(5) (7) は Ms. Carole Melzac のご厚意により訪問した。

### 3. 調査研究内容

「フランスにおける大学コンソーシアム(Couperin:Consortium Unviersitative des Publications Numeriques)活動の現状に関する調査」としてフランス国内の大学や高等教育・研究図書館で組織されるコンソーシアム Couperin の運営方法、活動内容、他組織との連携方法について調査を行った。また、Couperin と関わりの深い ABES にも同内容の調査を行いフランスの高等教育における学術情報流通基盤の構築の全体像への理解を深める機会を得た。同時に Couperin 参加館の図書館に対してもインタビューを行い、図書館からみたコンソーシアム活動について意見を聞くことができた。

#### 4. 調査研究の成果

フランスのパリにある Couperin は現在 242 の大学、グランゼコール（大学と並ぶ高等教育機関）、研究機関、国立図書館が参加している大規模なコンソーシアムである。主な活動として、電子リソースの契約価格交渉が挙げられ、この他にもオープンアクセス活動へのサポートを行っている。Couperin の運営は、Steering Committee と Executive Board の 2 つで構成され、事務局は非常勤も含めて 6 名である。Couperin は会費制であり、会費は機関の研究者と教員の総数で算出されている。会員館とのコミュニケーションは主にメーリングリストを使用し、年次大会、報告書が開催されている。

Couperin の協力員は約 100 名で、全員ボランティアであり、うち 80 名が交渉を担当している。交渉は出版社ごとにグループ分けをし、少人数で交渉がおこなわれている。交渉は海外出版社だけでなく、国内出版社とも交渉を行っていた。交渉担当者は経験のある者と、経験の浅い者とがペアになって、実践を積みながら交渉経験を積んでいくことが分かった。

フランス南部モンペリエにある ABES は現在の国民教育・高等教育・研究省の下にできた公的機関で、これまで Sudoc という研究機関向け総合目録データベースを構築してきた。2012 年から本格始動した ISTEEX（学術・技術情報エクセレンス・イニシアティブ）プロジェクトでは、電子ジャーナルのバックファイルに関して交渉を ABES が行い、ナショナルライセンスを獲得している。交渉の結果や価格の評価は Couperin が行っている。

Couperin が高等教育機関に限定されず、国立図書館等の参加も可能にした、いわばオールネイションのコンソーシアムとなったことで、フランス国内での存在感はますます大きくなっていると思われる。平行して、近年 ABES が電子リソース購入に積極的に関わってきたことから、以前よりも両者の協力体制がより積極的に築かれていると思われた。この背景には、両者を含め、フランス国内の大学図書館職員は共通のグランゼコールを卒業していることがあり、伝統的に個人的にも組織的にも結びつきが強く、図書館コミュニティの維持に対して関心や意識が高いことがあり、また国民教育・高等教育・研究省の財政面の後押しもあったと思われる。

Couperin や ABES の活動によって、個々の図書館が電子リソースの契約、管理で恩恵を感じている声がある一方、利用や設置形態が異なる図書館が一つのコンソーシアムで交渉が行われることに疑問の声もあり、それぞれの意見は Couperin の活動を客観的に知る上で役にたった。

今回の訪問では、電子リソースの価格交渉とその結果に対する評価、また購入、支払い方法に関しては、Couperin と ABES がそれぞれの役割を果たし、お互い協力することでナショナルライセンスの成立に大きく寄与していることが分かった。また、図書館員の高いボランティア精神、コミュニティ維持への関心の深さは、図書館員の人事制度もある程度作用しているのではないかと思われた。特に前者の仕組みは、今後日本の JUSTICE と NII が協力関係をもちつつ、交渉力を強化していくために今後の参考になるだろうと考える。